

養老町まちづくりビジョン・後期テーマ別戦略(素案)に対する

パブリックコメントの結果について

令和7年12月25日から令和8年1月23日まで、町窓口・HPなどで「養老町まちづくりビジョン・後期テーマ別戦略(素案)」のパブリックコメントを行いました。パブリックコメントでいただいた質問・意見及び町の考え方(回答・対応)は、以下のとおりです。

| No. | 質問・意見 | 回答・対応 |
|-----|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1 | 町歴史資料館の期間限定での開館と小中学校との連携による児童・生徒の町の歴史の学習機会の創設を提案します。また、山口俊郎記念館とYOROOfficeの2施設一元管理により地域交流を図ることができるのではないかと。 | <p>本町の歴史・文化資源は、地域への誇りの醸成や交流人口の拡大に資する重要な資源であると認識しています。ご提案いただいた公開機会の拡充や教育機関との連携、複数の施設の連携による地域交流は、施設の魅力発信や学びの機会の充実に有効な視点と考えます。一方で、施設の維持管理や運営体制には人員・財政面の制約もあることから、具体の手法については費用対効果や運営可能性を踏まえ、段階的に検討してまいります。</p> <p>いただいたご提案は、今後の事業推進・施設運営の検討における参考とさせていただきます。</p> |
| 2 | 「協働」の表現により行政と住民の役割分担・責任が曖昧となっていないかと。 | <p>養老町まちづくりビジョン・前期テーマ別戦略では、行政だけでなく多様な主体との連携・協働を重視してきました。人口減少・少子高齢化が進行するなか、町と地域が課題を共有し、一緒に協議することで、一つひとつ課題を解決していくことが重要であると考えております。</p> |
| 3 | PDCAが回っていないのではないかと。 | <p>基本目標ごとに成果指標、施策ごとにKPIを設定し、達成状況の確認と要因分析を行ったうえで、施策の重点化、事業手法や実施体制の見直しを行い、次年度以降の取組に反映しておりますが、ご指摘も踏まえ、更なる議論を深めてまいります。</p> |

| No. | 質問・意見 | 回答・対応 |
|-----|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 4 | 人口ビジョンの掲載は必要ないのではないか。養老町の特徴を精査した人口の将来目標とすべきではないか。 | 本計画は、今回お示しした「養老町まちづくりビジョン・後期テーマ別戦略」と今後お示しする「第3期まち・ひと・しごと創生養老町総合戦略」を一体的に策定しているところであり、その前提となる人口の見通し・将来目標(人口ビジョン)を合わせて示す構成としています。 |
| 5 | 産業振興による雇用の創出が一番になるべきテーマ・課題ではないか。 | 産業振興・企業立地支援・雇用促進は、計画体系の中(戦略9:多様な産業が活発なまち)でも位置付けており、引き続き重要課題として取り組んでまいります。 |
| 6 | 「地域間・国際交流」は「未来を担う人づくり」に該当するのではないか。近隣市町村への来訪者を養老町へ誘導する秘策を考案すべきではないか。「地域自治町民会議」の設立・役割の目標値を設定するなど、明確にする必要がある。教育現場で行われている文化活動をICTの活用により、ライブ配信してはどうか。 | 多くのご意見や提言を踏まえ、今後の施策展開や取組み、KPIの設定の検討における参考とさせていただきます。 |
| 7 | 平時は交流拠点、災害時は備蓄・避難の機能を兼ねる施設、行政手続と交流が一体となった場、学童・学びの場、若者の就労機会づくり等を組み合わせた「世代を超えて利用できるコミュニティ拠点」の創設。 | 人口減少対策は町全体に関わる重要課題であり、子育て世代の定着や、多世代がつながる場づくり、防災面の安心確保は重要な視点と認識しています。ご提案のような複合的な機能を持つ拠点は、利便性向上や交流促進、災害時の安心につながる可能性があると考えます。一方で、具体の施設整備(新設・改修・機能追加)については、既存施設の活用可能性、立地、運営体制、財政負担等を踏まえ、段階的に検討する必要があります。 いただいたご提案は、今後の公共施設の活用や子育て支援、防災の取組みの検討における参考とします。 |

養老町まちづくりビジョン・後期テーマ別戦略（素案）に係る意見書

施設のアピールと連携強化についての提案

人口減少とともに真っ先にやらなければならないことは、施設の存続の選択と同時に、存続の活用方法の具体案だ。特に、施設を残す選択をした場合、単独ではなく、施設のアピールと他との連携を活性化のため念頭に置きたい。具体案は下記のとおり。

① 養老町歴史資料館*1 まずは期間限定での開館

養老町に歴史資料館があることを知らない町民がいることが予想される。町民からの支持率の可視化として、入館者数が挙げられる。入館者数に一番期待したいのは、養老町の子ども達だ。養老町の子ども達が、中学を卒業するまでの全児童生徒が、社会見学により、養老町の歴史を学び、それと同時に、施設でのマナーを教えることも大切だ。それには、ただ、見せるのではなく、グループ分けをして、少人数で子ども達と交流できるようなガイドをする。ガイドをするのは、養老町の職員とボランティアガイドの方々にご協力いただく。しかしながら、施設には、必ず、維持管理の問題が発生する。他の市町村では、その点については、期間限定にしてカバーしている。例えば、

・安八郡神戸町の日比野五鳳記念館*2は、春と秋それぞれ1ヶ月のみ開館。

・岐阜市では、ぎふ灯り物語 2026年*3に伴い、約2週間のみ夜間開館ありとし、加藤栄三・東一記念館を午後5時半から9時まで無料開館。

現在、養老町歴史資料館は、見学したい場合のみの対応のため、利用が難しい。展示内容としては、養老町の基本情報を知るには、非常に良いので勿体ない。機材等の最小限の更新は必要と推察するが、教育機関との連携で実行可能ではないか。

② 山口記念館とヨロフィスの一元管理

山口記念館*4のアピールは本当に真剣に考えるべきだ。私事で恐縮だが、ほぼ毎週、先祖の墓参りとともに、養老町の偉人の方々のお墓参りもしている。すると、私以外にも、偉人の方々を慕う方との出会いがあり、励まされるのである。特別な会話は無いが、故人を大切に思う気持ちが所作で伝わってくる。

そこで、私の提案としては、施設の管理を指定管理として同時に2館、連携をしながら維持管理をする。そのことによって、地域交流ができるからだ。この2館としたのは、ヨロフィスが指定管理で運営されていること、地域が養老と高田で離れてはいるが、一直線で繋がっているためアクセスがよいことが挙げられる。さらには、山口記念館は養老町役場に近いため、目が届きやすい。また、山口先生を中心として、その他に、養老町の偉人の紹介をすることで、高田のまちづくりの拠点としても考えられる。山口先生にとっても、記念館に賑わいがあることは喜ばしいことと拝察する。

この提案は、すぐにはできることではないかもしれないが、山口記念館をこのままにしておいてはいけないことだけは、申し上げたい。

*1 [養老町郷土資料館 - 養老郡養老町石畑/資料館 | Yahoo!マップ](#)

*2 [日比野五鳳記念館 日比野五鳳記念美術館 | 岐阜県安八郡神戸町公式ホームページ](#)

*3 [ぎふ灯り物語 2026年 ぎふ灯り物語 2026 開催に伴う加藤栄三・東一記念美術館夜間開館（令和8年1月17日～2月1日） | 岐阜市公式ホームページ](#)

*4 [養老町立山口会館 | 岐阜県養老町の歴史文化資源](#)

最後に、西濃地域の市町村で、文化施設の運営が正常化されていないのは、ほぼ養老町のみであることも強調したい。西濃地域の文化施設一覧を別紙に付記する。養老町の子供達の未来のためにも、養老町の施設の中でも、文化施設の構築は、養老町が小さくても世界一魅力的な町になるための種まきである。施設はただあるだけでなく、養老町の施設との思い出により、人も施設も育つ。故に、養老町民に愛される施設になるための提案とした。

西濃地域の文化施設一覧

◆養老町 上記のとおり

◆安八郡

神戸町 上記のとおり

安八町 [ハートピア安八](#) [ハートピア安八 | 安八町](#)

輪之内町 [片野記念館](#) [片野記念館 | 岐阜県輪之内町～輪中が息づく平らな町～](#)

◆

大垣市 [スイトピアセンター等](#) [大垣市スイトピアセンター \[文化会館・学習館\]](#)

◆

海津市 [輪中ミュージアム](#) [木曾三川輪中ミュージアム わじゅ～む | 海津市](#)

◆揖斐郡

大野町 [大野あけぼのミュージアム](#) [大野あけぼのミュージアム \(大野町埋蔵文化財センター\) | 大野町](#)

池田町 [極小美術館 \(民間*公立は不明\)](#) [極小美術館](#)

揖斐川町 [揖斐川歴史民俗資料館](#) [揖斐川歴史民俗資料館 | 揖斐川町ホームページへようこそ](#)

養老町まちづくりビジョン・後期テーマ別戦略（素案）に係る意見書

（意見）

【総論として】

養老町まちづくりビジョンにつきましては、多くの関係者のご尽力により策定され、本町発展の道しるべとなっていますことに、心から敬意を表します。

今回、後期テーマ別戦略の資料を熟読させて頂き、従前から感じていたことを含め意見書に取り纏めましたので、ご笑読願えれば幸いです。

- (1) 『協働』のワードが良いように使用され、住民と行政の役割分担が極めて不透明になっており、計画と実行に対する責任があいまいである。

協働とは、異なる主体が「共通の目的」を持ち、「対等な立場」で「協力して働く」ことを意味します。これは、単に協力するだけでなく、互いの違いを認め、補い合いながら目的を共有し、連携していく関係性を指します。

つまり、協働という言葉は素晴らしいが、無責任な表現ではないのか？

行政が果たすべき責任と権限、住民が義務として果たさなければいけないことを明確にすべきである。

具体的な例を一つ上げれば、自治町民会議を設立して、10年経過しているのに、町内の半分の地区しか導入されていない。この様な現状を鑑み、反省・対策も打たず闇雲に『まちづくり計画』と言ってもしっくりこない。

本件を請け負っているコンサルタント会社へ湯水のようなお金を垂れ流しているだけではないのか。（自治町民会議のまちづくり計画にも、同じように行政と協働しながらまちづくりを進めるため・・・となっているが、実態は？）

- (2) 計画の推進～検証（PDCA）サイクルがキッチリ回っていない。

（言葉だけが一人歩きの感あり）5年間の反省・課題の深堀がされていない。

Plan・Do、Plan・Do に終始し、Check・Action が各項目において真剣に議論されておらず、薄っぺらで月並みな取り纏めとなっている。（町に何を残し、何を变えていくのか、キッチリ整理されていない。）

- (3) 養老町人口ビジョン（39 ページ～61 ページ）の掲載は無用であると考えます。

日本の人口を言っても意味がない。（過去の推移を並べてもしょうがない。）

つまり、人口ビジョンといいながら、2000年～2020～2024年まで、だらだら並べたところで意味がない。色んな資料に掲載されているので、その資料参照程度でいいのでは？

また、人口の将来目標を示しているが、養老町の特徴を精査した目標値とすべき。

そしてまた、この数値を、今後どの様に生かすことができるかに繋がっていない。

【資料に対する具体的な意見】

- (1) P32 (2) まちづくりの課題 本町のまちづくりの課題

①は、産業振興による雇用の場の創出 本テーマが一番になるべき課題である。

（理由）

東海環状、養老 IC 及び名神高速養老 SA スマートインタチェンジが出来たにも拘わらず、目に見えるような工業団地造成とか企業誘致活動がなされていない。

若い人が地元で働く場所が無ければ、住みやすさだけで、養老に留まるわけがない。何故もっと近隣の市町を見習い、行動を起こさないか？（大野町・海津市などなど）

また、高齢者福祉の推進は最後まで良いのでは。これ以上高齢者に手をかける必要ない。健康寿命・平均寿命が大幅に伸びた今日、養老・孝子伝説にとらわれてはいけない。

<余談>

その次に取り組むべきことは、少子・高齢化・空き家問題が大きな課題となっているが、何故、自治組織の再編・見直しに着手し、地域コミュニティの活性化に繋げないのか？

具体的には、養老町内各地区における自治会・区組織の見直しを行い。各地区バランスの取れた体制・規模の見直しを図れば、行政の効率化にも繋がり、意思決定の迅速化にもつながる。(特に、区割り)(学校の統合とも連動させるべきである。)

(2) 基本構想(第1章 養老町の目指す方向)について

P35 3 まちづくり施策の大綱について

施策の大綱1～施策の大綱5までであるが、その順位の見直しが必要では

『施策の大綱4 活力あふれる基本づくり』を『**施策の大綱1 活力あふれる基本づくり**』とすべき。

(理由)

最優先されるのは、養老に住む人々の雇用であり、雇用を創出する企業が不可欠である。雇用がしっかりしていれば、結果として移住者を呼び込みやすくなる。『自立的エリア』の形成、いわゆる「生活圏」を自立エリアにすることが最優先と考えるから。

<余談>

・東海環状、養老IC及び名神高速養老SA スマートインタチェンジが出来たにも拘わらず、目に見えるような工業団地造成とか企業誘致活動がなされていない。(サラダコスモのみでは、宝の持ち腐れではないか?)

若い人が地元で働く場所が無ければ、住みやすさだけで、養老に留まるわけがない。何故モット近隣の市町を見習い、行動を起こさないのか?

(大野町・海津市など)

・養老町への企業誘致優遇策・・・誘致企業には水と電気について、一定の期間無料とするくらいの優遇措置を講じてみてはどうか?

(3) 後期テーマ別戦略について

・前(1)項同様、施策の大綱の1には、活力あふれる基盤づくりとすべきと考える、

(理由)

前(1)項と同様

・P66、P67 多くの関係人口を有するまちのまちづくりの目標 「日独交流事業への申込者数」、及び『3 地域間・国際交流』については、本項目に相応しくない。従って、P71以降の『未来を担う人づくり』の項へ移動させるべきと考える。

(理由)

関係人口に10人程度の指標を入れ込むことがナンセンス。(数百～数千人規模なら違和感がないが・・・?)

そして、地域交流・国際交流については、明らかに、『未来を担う人づくり』に該当すべき内容である。

・P67 「2 観光振興」につて

関係人口の拡大に関して、タウンプロモーションのみでは、養老の滝のみで他にランドマークの無い養老町は大変厳しい。従って、近隣市町村(観光客で賑わっている関ヶ原町、お千保稲荷・木曾三川公園のある海津市)への訪問客を養老町へ誘導する秘策を考案し関係人口の拡大を図る必要がある。(本秘策を打っている間に、養老町のランドマークを構築する。)

(理由)

周辺市町村への観光客の増加を指をくわえて見ているだけでは能がない。

本町への誘導秘策を考案することが、当面の措置とし、将来のタウンプロモーションに繋げる。

<余談>

- ・とりわけ、現在検討中の『食肉センターの設置』を最優先に取り組むべきである。地元住民の雇用を最優先にすれば、200人～250人の雇用確保・創出に繋がる。更に、食肉センター内にレストラン・肉料理店（焼肉等）を誘致し、養老町のブランドの郷として、味のランドマークとすれば、地域・養老町に取っても一石二鳥である。

（肉の町養老の知名度をアップさせることができる。ランドマークの無い養老にとって効果大である。）

- ・更に言えば、食肉センターから養老公園までの街道に飲食店を誘致して、名実ともに焼肉街道&味の楽園華道として、観光客を呼び入れてはどうかと思う。また、そのためには宿泊施設も必要となる。必要に応じて、トレーラー方式の簡易ホテルを30～50床を用意する。（海津市・垂井町にあり）
このような議論を、若手集団（商工観光課が主体）で議論してはどうかと思います。

- ・ P68 『共創と協働による持続可能なまち』

まちづくりの目標に、『自治町民会議』の導入・設立の目標値を明確に入れることとその役割を明記する必要がある。

（理由）

前記総論としても記載しましたが、自治町民会議を設立して、10年経過しているのに、町内の半分の地区しか導入されていない。この様な現状を鑑み、反省・対策も打たず闇雲に『まちづくり計画』と言ってもしっくりこない。この機会に是非、設置の推進を図って頂きたい。

- ・ P69 「2 コミュニティの活性化」について

『地域運営組織である地域自治町民会議の活性化を図ります』とあるが具体性に欠ける。どの様にして活性化を図るかが重要。

（理由）

前項と同じく、10年経過しても、町内半分のエリアしか導入・設置に繋がっていない現状を鑑みて、どの様に活性化するのか不明。

- ・ P73 質の高い教育が実施されるまち 文化活動について

『優れた芸術・文化に触れる機会を充実する・・・』に加えて、ICTを活用した人づくりの一環として、教育現場で行われている、文化活動について、町での発表内容をICTを活用し、町内・関係市町村へライブ配信するなどして、町民の文化意識の醸成に努めることが必要。例えば、各エリア持ち回りで実施されている、教育文化フォーラムなど、素晴らしいイベントについて、ライブ配信を行い町民・関係者へのPRと文化意識の向上に寄与する。

（理由）

行政や教育現場におけるデジタル化の遅れが顕在化すると言った課題があるにも拘わらず何も策を講じていないから。教育現場の活性化のためにライブ配信は不可欠。

（議会のライブ配信に比べれば、町民からは大歓迎である）

【まちづくりへの提言】

- (1) 人口減少に伴う、地域拠点の集約を図り、行政の効率化を推進する。

第一ステップとして、現在検討中の学校の統合に連動させ、町内に現在10数地区（大きな区割り）ある、区割り（区長会長レベル）を高田中校区及び東部中校区の2つのコアに集約して、全ての機能が円滑に回るように組織の再編をする。当然、行政の出先機関も2ヶ所に統合するなどして、効率化を図る。（自治会館・公民館等についても2ヶ所に統合を図る）

第二ステップ（10～15年後）としては、全ての関連機関を町に一本化を図る。（中学校・小学校の1ヶ所への統合。自治会館・公民館等についても1ヶ所に集約を図る）

そのためにも、今回の学校の統合に向けた検討の中で、各種種シュミレーションを行い、A・B・C・Dパターンを策定し、10数年後に備える。

(まずは、養老町のコア地区は2地区とし、究極は1地区とするような考え方)

(2) 一人暮らしの高齢者対策 人口集積の二層化 (前(1)項に関連)

人口が減少し高齢者が増加し一人暮らしが多くなることを考えれば、『生活圏』の中において、地域ごとに拠点を定めて、さまざまな埼葛機能を集約し、そこに集まり住むこととする。拠点への集約を促すには「生活圏」の中で2地域居住を推進する。長年住み慣れた自宅はそのままにして、人々が集まる拠点にセカンドハウスを構えることとする。高齢者がセカンドハウスを購入したり、借りたりすることは難しい。そこで、行政が低賃金で入居できる高齢者向け賃貸住宅を整備する。安心して2地域居住できるよう、地域の顔なじみが、同じセカンドハウスに住めるような配慮し、入居者には低賃金で入居できる代わりに、住民同士の支え合いの参加を求める。こうすることで、孤独と孤立対策にもなる。

例えば、ウイークデーには地区ごとの小さな人口集積地である、拠点のセカンドハウスに集まり住み、土曜日・日曜日などには長年住み慣れた自宅に戻って過ごすといったスタイルが想定される。

このような施策を、高齢者特区の施策として展開できないか、検討してはどうか。

幸いにも、養老町には、高田中校区(高田地区)には、旧養老女子高校の校舎(県から払い下げを受ける)の耐震補強と改修を行い、200~300人収容のセカンドハウスを構築することができる。(統合で廃校となった校舎でも可能)

また、東部中校区には、廃止となった旧町民プール(現在利用中止)の建物を耐震補強と改修を行い活用する。(200~300人収容できる設備とする)(統合で廃校となった校舎でも可能)

なお、セカンドハウスに隣接して、こども園・保育園を誘致すると、老人と園児との交流が増加し、相互の活性化に繋がるメリットが生じる。

これら施策は、拠点への集住を図ることは、人で不足対策であり、1人暮らし高齢者対策であり、地域のインフラの持続可能性を高めることにもなる。

変化はチャンス!!

・・・参考・・・ 縮んで勝つ(人口減少日本の活路) 河合雅司 著

(3) ランドマークの構築

(将来に向け、全ての設備等の統合&機能性アップを図り、町民・観光客の憩いの葉場の構築)

・例えば、スポーツ交流設備の充実と住民憩いの場の構築

具体的には、現在、町の野球場の大改修が行なわれているが、これに合わせ、総合体育館の改修と多目的グラウンドを併設し、多くの町民が集まる憩いの場を作り。子どもからお年寄りまでが楽しめる総合施設の構築が不可欠、本総合施設を町のランドマークとし、養老公園・中央公民館(図書館)・厚生病院・養老鉄道駅(高田・養老)を繋ぐコミュニティーバスを運行させ、集客効果のアップを図り、町民が自信と誇りの持てる養老町とする。多目的グラウンドでは、フットサル・テニス・ゲートボール・グラウンドゴルフなど様々なスポーツができるようにする。また、総合体育館では、卓球・ダンス・バレエ・会議など様々な用途で使用可能とする。

最後に、町民が何時でも訪れる場所とし、ここから賑わいが発信できる場所としたい。(当然、飲食のコーナーも設置が不可欠)

以 上

「パブリックコメント『養老町まちづくりビジョン・後期テーマ別戦略(素案)』への意見」

| | | |
|------------------|-----------------|----------------|
| 氏名 (名称) | (ふりがな) | |
| 住所 | | |
| 電話番号 | | |
| 町内に住所を 有しない方は | 町内に事務所又は事業所を有する | 町内の事務所又は事業所に勤務 |
| | 町内の学校に通学 | 利害関係を有する |

これまで町を支え、守ってこられた皆様に、心よる敬意と感謝を申し上げます。私は結婚出産を機にこの町に越してきました。それまで正直知らなかった町ですが、一瞬でこの町が好きになり、きっとこの先も生涯私はこの町に住み続けます。また子供たちはこの町が故郷になります。私たち子育て世代も、先人の皆様が築かれてこられたこの町で、これからも安心して暮らし続けたいと願っています。

現在、人口の減少は町全体の問題であり、将来的には町の存続にもかかわる問題だと思えます。この課題は特定の世代だけのものではなく、今住んでいる全ての町民に共通するものではないでしょうか？

その上で一般市民・子育て世代として、今回意見を述べさせていただきたいと思いました。

(ご意見)

・世代を超えて利用できる**コミュニティ拠点**の提案(東部中地区と高田中地区に)します。現状公民館やヨロフイスがありますが、あのような施設に下記の内容を組み入れたコミュニティ拠点を東部中地区に希望します。

- ①昼間は未就園児とその家族の支援の場であり、年配の方々も気軽に立ち寄れる**交流の場**。
- ②住民票やマイナンバー関連・出生関連などの手続き、子供の〇歳検診など行政のサービスの一部を担える**場**。
- ③午後からは園帰りの子供たちの**活動の場**、夕方以降は小学生の**習い事や学びの場、遊びの場**。
- ④小中学校・高校の長期休暇は勉強や読書などもでき、子供たちが自然に集まれる**居場所**。
- ⑤季節行事などを通じて年配の方と地域の子供たちが**触れ合える場**。
- ⑥災害時に活用できる備蓄倉庫などが併設した**避難場所**。

人と人の繋がりが次の世代へ受け継がれていくことを信じております。

(理由)

- ①近年増えている地震などの災害への備えとして、平常時は交流拠点、災害時は備蓄倉庫や避難所として活用できる施設があると【**いつもの場所**】として避難時の安心へと繋がる。(全世代)
- ②広いこの町で幼い子供を連れて行政関連の手続きを行うのは移動だけでも母子ともに疲れてしまうため、【**用事と交流が一体となった施設**】があることで、この町で子育てをしたい！と思ってもらえる。
- ③町内では高校生や大学生が働ける場所が限られているという声も聞きます。長期休暇や土日はこの施設を利用して大学生や高校生が小中学生へ勉強やスポーツなどを教える、また介護補助やこの施設にカフェなどを併設し運営などし、【**働ける場所**】をつくる。若い世代が町の中で役割を持ち、働く経験を積む場所にもなればと思います。
- ④共働き家庭が増え、高齢化が進む中、送迎の負担から平日の習い事を諦める家庭も少なくありません。園や小学校とこの施設をスクールバスなどでつなぎ、申請により下校時にそのまま移動できる仕組みがあれば子供たちは安全に活動に参加でき、保護者の負担軽減にも繋がり、子供たちにたくさんの【**学ぶ場・機会**】を与えられると考えます。
- ⑤小学校の統廃合が近い将来決まっている状況下で、統合後の小学校の近くにこのような施設があることで、放課後や長期休暇中の居場所としても活用しやすく、学童の機能を担う場としても検討できるのではないのでしょうか？

こうした経験を通じて、**子供や若い世代がこの町を好きになり**、介護士や保育士、教師、調理師、運営、経営などたくさんの将来への選択肢が増え、一度は進学のために、この町を離れることがあっても【**戻りたい**】と思えることが、将来この町に人が戻ってくるきっかけになると考えます。

またこのような取り組みを行うことで隣市町や他県や他市町村から、【**この町に住みたい**】と思ってもらえるようになることが、この町の将来を変えるのではないのでしょうか。